

博士前期課程（修士） / 実践看護学領域 / 成人看護学分野

科目コード：240003

# がん看護学演習 I Oncology Nursing I

担当教員 牧野智恵、北山幸枝、坂下智珠子、我妻孝則、北本順子、村上真由美

実務経験

開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義・演習
必修・選択	選択	時間数	30		

Keywords 薬物療法、症状マネジメント

学習目的・目標 《学習目的・目標》 学習目的：がん薬物療法と療養過程のマネジメントについて学び、Evidence based practice のために必要な知識を習得する。 学習目標： 1. がん薬物療法の効果と有害事象のメカニズムについて理解できる。 2. がん薬物療法中の患者へのEvidence based practice のために事例を通して、ケアとキュアの融合ができる。 3. がん薬物療法中の患者に生じる粘膜障害の支援を理解する。

## 授業計画・内容

回数	授業内容	授業方法	
1-2	がん薬物療法と予防メカニズム	講義・討議	牧
3-5	消化器・呼吸器がん薬物療法と療養過程のマネジメント  大腸がん・胃がん・肺がん患者のEvidence based practiceのための事例分析  ① 大腸がん・胃がん・肺がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する  ② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、多職種との協働のあり方について	講義・討議	坂
5-6	造血器腫瘍薬物療法（造血器幹細胞移植を含む）と療養過程のマネジメント  ① 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する  ② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法、緩和ケアのチーム体制との協働のあり方について	講義・討議	我
7-8	乳がん・生殖器系がん薬物療法と療養過程のマネジメント  ① 乳がん・生殖器系がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する  ② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、緩和ケアのチーム体制との協働のあり方について	講義・討議	村
9-10	がん化学療法を受ける患者への粘膜および創の管理  ・薬物療法における粘膜障害の特徴およびそのケアについて	討議	北
10-13	化学療法を受けているがん患者の経済上の問題、および医療・福祉施策について	講義	北
14-15	がん化学療法を受ける患者へのマネジメント  ① 学生のこれまでの看護実践の中から、化学療法を受ける患者・家族への困難な事例について討議し、マネジメントについて理解を深める	討議	牧

教科書

参考図書等 ・鈴木志津枝、小松浩子 監訳 「がん看護PEP リソース」医学書院、2013年・西条長廣監修；EBM がん化学療法・分子標的治療法、中外医学社、2010年・小島美佐子・佐藤麗子監訳；がん看護 コアカリキュラム、医学書院、2008年

評価指標 各セッションの準備状況と学習への取り組み(40%)、事例分析時の発表・質疑応答内容(40%)、レポート(20%)によって評価する。

関連科目 がん看護学演習II

教員から学生へのメッセージ ① 事前に配布される事例あるいは講師からの事前課題についてはEvidence based practiceのためのステップに沿ってあらかじめ分析しておくこと。② 自らのケア経験も交えて積極的にディスカッションしましょう。